2019年7月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第510号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

地域出版とアーカイブズ―★★

地域を拠点に活動する小出版社が、これから取り組むべき仕事として

文／吉備人出版　代表・山川隆之

2年前（2017年）の6月、岡山県立記録資料館で講演した。テーマは「地域出版とアーカイブ」。それまで、「アーカイブ」という言葉を特別意識したことはなかったのだが、少しは勉強しておこうと、アーカイブに関する本を読み、アーカイブに携わっている人たちに話を聞いた。そうしたなかで、地域で本をつくることとアーカイブは密接な関係があること、地域を拠点に活動する小出版社がこれから取り組むべき仕事として、「アーカイブ」がひとつのキーワードになるのではないかということを考えるようになった。地域出版が取り組むアーカイブ事業、踏み出したその一歩について報告したい。

企業アーカイブセミナーの様子

アーカイブとは英語で「記録保管所」のことで、記録された文書、史料、画像などを整理、保存し活用すること。岡山では、岡山県立記録資料館が公文書を対象にしたアーカイブを担っている。同館は、2002年9月に開館。全国の都道府県立の公文書館では29番目の施設で、県の公文書をはじめ個人や組織の文書群を収集、保存している。館内には、テーマを決めての展示コーナーや資料などの閲覧室、研修室などもあり、年間に6000人（平成28年度）が訪れ利用しているという。

吉備人出版の著者には地域史を研究している人も多く、県立図書館と同様この記録資料館を利用している。ただ、私自身はどのような資料が保管され、どんな活用がされているのか、その役割などほとんどといっていいほど知らなかった。熱心な活用者ではなかった。

地域出版社としての蓄積を生かして

吉備人出版は、1995年（平成7年）に創業し、この春（2019年）25年目に入った。これまで約680タイトルの本を出版している。ほとんどが地域をテーマにしたもの、著者が岡山ゆかりのある人などである。ここ数年は、年間に30点から40点のペースで刊行している。

こうした出版活動とともに、近年増えているのが地元企業の社史編纂だ。この7～8年間に企業数でいえば十数社の社史・記念誌の編纂・制作を手伝ってきた。多くは、企業が持つ古い資料を掘り起こし、関係者やOB社員への取材をもとに原稿制作から書籍化までを行う。必要に応じて地域史の専門家に監修を依頼することもあり、こうした地域出版で培ってきた総合力がいわばウリなのである。

さて、社史編纂が終わるたびに感じることがあった。せっかく集め整理した資料・写真などが、再び段ボール箱に詰められ保管、場合によっては廃棄される――これを何とかできないか。編纂作業の過程で必要な資料はデジタル化し保存する。キーワード検索によって、その資料をすぐに呼び出すことが出来れば……。さらに刊行後はそれぞれの企業が日々の事業活動を定型的にデジタル化すれば、日常的な企業アーカイブの構築が可能なのではないか。

一連の作業を企業に代わって代行するサービスを、ビジネスとして落とし込み、アーカイブ事業をスタートさせた。事業名は「Business Archives lab.」。それが2018年の春。ちょうど1年前だ。そのときまとめた事業計画書には、つぎのようにある。

「……編纂作業においては、依頼者である企業の持つ資料の発掘、整理、関係者のインタビュー、調査などが欠かせない作業ですが、あくまでも記念誌編纂を目的とした作業に終わり、記念誌刊行後は再び段ボールなどに詰められ（場合によっては廃棄され）、系統的な整理・保存・活用には結びついてい

ないのが現状です。

企業としては――

こうした企業史料の重要性を認めながらも、「どのように保管しておけば良いのかわからない」「資料保管、整理のための人員・経費を避けることができない」「今のうちに創業者やOBの話を聞いておかなければ、何も記録が残っていない」「資料を残していても、活用方法が思いつかない」……などなど、CSRやコンプライアンス、社員教育、広報関係ツールとして、ある程度の必要性、価値を認めつつも、通常業務の一つとして、企業アーカイブの整理・保存・活用に取り組めていないのが現状です。

吉備人では、こうした企業・団体の資料の整理・保存・活用の必要性、重要性を訴えつつ、その業務の代行を受託し、企業アーカイブを地域資源の一つとして位置づける活動をビジネス化することにいたしました」

具体的には、

●未整備な資料の保存状況と調査

●資料の収集、整理、分類、体系化、保存、管理、電子化等のバックアップ作成、ファイリング、目録作成、データベース作成等

●資料のデジタル化スキャニング -PDF化、デジタル化、資料の保存・活用のための作業

●創業者やOBを対象にしたインタビューによる「記憶」の記録化（文章化）及び編集

●社史など企業アーカイブズの活用に関する企画・提案

――などを業務内容として組み込んだ。

資料のスキャニングなど設備や知識が必要なものは、地元の印刷会社と提携することにした。印刷会社もまた、印刷受注の厳しい状況が続くなか、新たな事業を模索しているということもあり、前向きに協力してくれることになった。

これまで社史編纂などでつきあいのある企業にビジネスアーカイブ事業を提案したところ、どの社も必要性を感じ、興味を示してくれた。公共の事業を担うある社では、「まず総務分野の資料から取り組んでみたい。検討します」。また建設ゼネコンのある社では、「倉庫に眠っている大量の設計図や建設仕様書などを整理、デジタル化したい」との返事が返ってきた。

企業アーカイブセミナーチラシ

必要性を感じながらも、どこからどう手をつけていっていいのかわからなかった――それがアーカイブを提案した企業の反応だった。掘り起こせば、需要はある。そんな確信を得た。

セミナーで裾野を拡大

昨年秋には、第1回企業アーカイブセミナーを開催した。当日は、産業考古学会理事研究者による「先進企業に学ぶ企業アーカイブの取り組み」と題した講演をはじめ、アーキビストら専門家による事例紹介、社史などへの活用提案などを行い、県内外から参加した約30人と企業資料の保存と活用について考えた。

今年5月には第2回のセミナーを行い、昨年夏の西日本豪雨で被災した倉敷市真備町の家具製造会社社長が、「災害と企業アーカイブ」と題し講演。社屋・工場が水没するというたいへんな状況にもかかわらず、奇跡的なスピードで復旧・復興を果たした経験をもとに、資料のデジタル化の重要性を話してもらった。

こうしたセミナーの開催やWebサイトでアーカイブ事業の事例を紹介することで、地元企業から資料のアーカイブ化、またアーカイブ化を含めた社史編纂についての依頼、問い合わせが増えてきている。

地域出版の出版テーマとして、地域のアーカイブは欠かせない。一方で、地域のアーカイブの活用方法、表現方法の一つとして、出版物の編集・制作は欠かすことのできないものだ。今後、地域出版が地域・文化・教育・産業に役立つ存在になるためには、アーカイブに対する考え方がもっと広く根付かなければならない。地域出版としては、

アーカイブ構築の裾野を広げていく活動が欠かせない。

地域のアーカイブへの関心が高まり、その重要性が認められることで、さまざまな分野における地域のアーカイブが構築される。それらが重層的につながることで、これからの地域づくり土台となり、バネとなっていく。この一連の流れのなかで、地域出版社が担うべき役割があるのではないかと思う。少なくとも吉備人はその役割を担う存在でありたいと思っている。

Business Archives lab. のホームページ：https://business-archives.jp/

＊

（やまかわ　たかゆき・吉備人出版代表）

企業アーカイブセミナーではアーカイブの成果物も展示した

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率８%）表示です。

この「新刊ダイジェスト」のバックナンバーを弊社Ｗｅｂサイトにたくさん掲載してます。機会がございましたらぜひご覧ください。アドレスは以下の通りです。右のＱＲコードもご利用ください。　http://neil.chips.jp/chihosho/digest/index.html

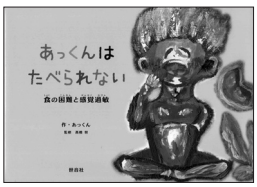
『ところで軍国少女はどこへ行った』●本田和子著

昭和６年生まれの著者は、お茶の水女子大学初代女性学長も務めた児童文化・社会史研究者であるが、少国民と呼ばれ、軍国少女へと成長した過去をもつ。人生の終焉に近づいたと自覚した今日、自らの遠い記憶を蘇らせ、「子どもは教育を通じて一定方向に形作られ易い」ことを、大人の責任として語らずにはいられなかったという。少女の心に深く入り込んだのは、日本国史と戦時歌謡であった。

国の始まりは高天原にあり、万世一系の天皇を戴く神国であるという史実を本気で信じたわけではないにしても、納得して従った。聖戦を鼓舞する「見よ、東海の空明けて」の勇壮なリズムで毬つきをし、今も多くの戦時歌謡を口ずさむことができる。それが戦後、何のこだわりもなくアメリカ文化の中にすっぽりとはまった。教えられることを問いただすという視野のないまま日本観、戦争観を形成していく少女の姿は、どこか危うい現今の社会と重なり、重く胸に突き刺さる。

◆ 1,296円・Ａ５判・183頁・**ななみ書房**・神奈川・20190401刊・ISBN9784903355832

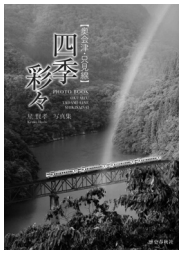
『あっくんは　たべられない　－食の困難と感覚過敏』●あっくん著／高橋智監修



あっくんは、学校の給食の時間が大嫌いになった。ともだちはみんな食べ終わって外で遊んでいるのに、自分だけ全部食べるまで教室に残される。「食べたら運動会で一番になれるよ」お母さんはそう言うけれど…無理やり食べたけどダメだったよ、お母さん…高校生になって、あっくんは自分が食べられるおかずばかり詰められたお弁当を持って学校に通う。ある日そのお弁当をバスの中におき忘れちゃった…この絵本の後半の解説編によると、近年、子どもの偏食と発達障害の思わぬ関係が疑われるようになってきたという。かつて、子どもの偏食は周囲に「わがまま」と捉えられ、親の躾や育児の問題に還元されることが多かった。しかし、そういった子どもたちの「食の困難」は、「わがまま」や親の育て方といった次元の問題ではなく、発達障害に伴う感覚過敏を考えにいれないといけないのではないか。そして周囲の大人に必要なのは「指導」ではなく、その子が食べられるようになるための効果的な支援にあるという。

◆ 1,620円・Ｂ５判・27頁・**世音社**・東京・20190331刊・ISBN9784921012298

『四季彩々【奥会津・只見線】』●星　賢孝著



新潟県の小出と福島県の会津若松を結ぶJR只見線。福島県内の区間は只見川に沿った奥会津と呼ばれる山峡の集落を結んで走ります。深い山に抱かれた沿線の風景は四季折々の変化を見せます。そんな只見線の季節の表情を切り取ったのが、この写真集です。奥会津の風景と言えば美しい山林が主役。初夏の新緑、秋の紅葉の美しさは言うまでもありません。また冬には深い雪に覆われ、情景が一変します。そんな山と並ぶもうひとつの主役は只見川。川霧に抱かれた長大な橋の上を走る列車の姿などは、皆さんも駅のポスターなどでご覧になったことがあるかもしれません。只見川にはダムが連続し水面が穏やかなのも特徴で、橋や列車、夕日なども鏡のように映しだします。今や海外からも乗りに来る人がいるほどの絶景として知られています。8年前の水害で長らく不通だった只見～会津川口の区間もようやく復旧が決定し、海外からも注目される只見線沿線の美しさを御堪能ください。

◆2,484円・A4判・87頁・**歴史春秋社**・福島・20190512刊・ISBN9784897579498

『市場界隈　ー那覇市第一牧志公設市場界隈の人々』●橋本倫史著

1950年、米軍管理用地を借り受け開設された那覇市第一牧志公設市場。現在の建物は1972年、沖縄復帰の年に完成したが、老朽化が進み、今年6月16日に営業を終了し、建て替え工事に入る。仮設市場を経て、新しい市場は2022年春にオープン予定だが、令和という新しい時代に突入するタイミングで建て替えを迎えるのは時代の象徴のようにも思える。　平成が始まったばかりの小学生の頃、初めて沖縄を訪れた著者は建て替えを知り、市場の風景を記録するべく、沖縄に通い詰める。市場だけではなく、アーケードが張り巡らされている範囲を“市場界隈”として新旧織り交ぜた30軒を取材。沖縄の独特な食文化はもとより、観光客に大人気の猫店長がいるタオル屋や土産品店、酒場やコーヒースタンドなど、店主の一人一人の姿を通して沖縄の戦後と現在が浮かび上がる。未来を見据えて新市場の魅力を作っていくのが課題と語る現市場組合長の言葉が頼もしく、期待が膨らむ。

◆1,998円・四六判・274頁・**本の雑誌社**・東京・20190525刊・ISBN9784860114305

『あおもり　まち野草』●村上義千代著

蛇が鎌首を持ち上げたような異形の草姿。著者が青森市で撮影したカラスビシャクという名の雑草は飲食店の幟を立てる土台石から生えていた。また、著者が長い間探し求めていたというスズメノテッポウなる愛嬌のある名の雑草は弘前市の繁華街の道端にさりげなく生えていた。茎の先端部から、名の由来となった円柱状の花穂を付けている。日本在来種だが「史前帰化植物」とする説もある…近年、シルバー世代を中心に山野草や高山植物に人気が集まっているというが、著者はいつの間にやら、身近な足元に生えているようなただの雑草に目がいくようになった。本書に掲載された309種類の「まち野草」の写真を見るとコンクリートやアスファルトの隙間から生えているような、あまりにもさりげなさすぎて普段は目に留めることもない雑草ばかり。しかし、そんな名も知らぬ雑草の歴史や名の由来、分布など、なんとも奥深い物語が解説として付されている。雑草マニアにはもちろん、街歩きのお供にしてもいい。

◆2,700円・210mm×210mm判・329頁・**東奥日報社**・青森・20190607刊・ISBN9784885612558

地方小出版流通センター　ジャンル別新刊案内

2019年5月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆そらとぶこぎん　第3号　石田　舞子編　A5　76頁　1000円　津軽書房［青森］　978-4-8066-0244-6　19/04

◆S－style 6 vol.654　プレスアート編　298mm×232mm　143頁　450円　プレスアート［宮城］　978-4-503-21755-4　19/06

◆GREEN REPORT 473　2019年5月号　廣瀬仁編　A4　192頁　2800

売行良好書　期間：2019年5月15日～6月14日

［出荷センター扱い］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『東京の森のカフェ』1,404円・書肆侃侃房　(2)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(3)『歌集　砂丘律』1,512円・青磁社　(4)『お寺参りが楽しくなる　奈良百寺巡礼』1,058円・京阪奈情報教育出版　(5)『よみきかせのきほん』810円・東京子ども図書館　(6)『出雲王国とヤマト政権』2,430円・大元出版　(7)『近江の山城を歩く』2,376円・サンライズ出版　(8)『日本統治下の朝鮮シネマ群像』2,376円・弦書房　(9)『写真でつづる　アマミノクロウサギの暮らしぶり』1,944円・南方新社　(10)『暗黒との対話』4,860円・忘羊社　(11)『今、この本を子どもの手に』1,080円・東京子ども図書館　(12)『日光パーフェクトガイド　改訂新版』1,620円・下野新聞社

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『昭和プロレスマガジン　４９』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『東京かわら版　６月号』500円・東京かわら版　(3)『本の雑誌　４３３号』720円・本の雑誌社　(4)『奥武蔵登山詳細図全１３０コース』972円・吉備人出版　(5)『近世新潟の城と陣屋』2160円・随想舎　(6)『高尾山登山詳細図全１１２コース』972円・吉備人出版　(7)『パズル通信ニコリ　Ｖｏｌ．１６７』972円・ニコリ　(8)『市場界隈』1998円・本の雑誌社　(9)『古墳人、現る』1620円・上毛新聞社　(10)『本屋大賞　２０１９』600円・本の雑誌社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『歌集　砂丘律』1512円・青磁社　(2)『お寺参りが楽しくなる　奈良百寺巡礼』1058円・京阪奈情報教育出版　(3)『江戸幕府代官頭　伊奈備前守忠次』2700円・埼玉新聞社　(4)『図説１７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2500円・みんなのデータサイト出版　(5)『新装版 奥武蔵登山詳細図 全130コース』972円・吉備人出版　(6)『復興　熊本城　Ｖｏｌ．１　被害状況編　平成２９年度上半期まで』1080円・熊本日日新聞社　(7)『そらとぶこぎん　第３号』1000円・津軽書房　(8)『出雲王国とヤマト政権』2430円・大元出版　(9)『日本統治下の朝鮮シネマ群像』2376円・弦書房　(10)『奄美のノネコ』2160円・南方新社　(11)『暗黒との対話』4860円・忘羊社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

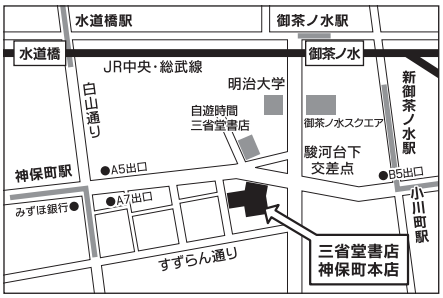
トピックス ―― ★★★

▼この５月にも増刷される予定とアナウンスされていた、来年公開予定の映画**【浅田家】**の原案のひとつ**【アルバムのチカラ】**ですが、12月に増補版を刊行することになったそうです。詳細は未定となっております。

▼日本における女性写真家の草分けとして活躍した山沢栄子の展覧会**【私の現代】**が西宮市大谷記念美術館（兵庫）で開催中です。「1899年大阪に生まれ、1920年代のアメリカで写真を学び（貨物船で渡米！）、1930年代から半世紀以上にわたり、日本における女性写真家の草分けとして活躍した山沢栄子。生誕120年を記念したこの展覧会では、1970-80年代に手がけたカラーとモノクロによる抽象写真シリーズ <What I am doing> を中心に、抽象表現の原点を示す1960年代の写真集、戦前の活動を伝えるポートレートや関連資料など約140点が展示されています。写真による造形の実験を重ね、独自の抽象表現を拓いた先駆者＝日本写真の流れとはまた異なる地平で創作を続けたその写真家の歩みを辿る展示です。なお、展覧会は、2019年11月12日（火）～東京都写真美術館にも巡回予定です。」赤々舎HPより。写真集**【私の現代】**（ISBN978-4-86541-096-9 本 体 3,500円）は現在販売中です。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM ～ 8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。